

2021年夏 思春期の子どもを支える会 勉強会

乳幼児期の子育て支援の専門家からみた親子の現状と思春期を見すえた課題

2021年8月1日(日) 14:00~16:15 オンライン+録画配信

当日はお忙しい中、吉富さん、福田さん、田形さん、城戸さん、貴重なお話をありがとうございました。改めてお礼申し上げます。その後、録画配信もしております。御覧ください。現時点(2021年8月20日)でいただきました感想・ご意見をまとめました。4名の講師の先生にも共有します。今後も企画してまいりますので、ぜひ、一方通行にならないよう、感想や討論を深めていきたいと思っています。ご協力、ご参加よろしくお願ひ申し上げます。

思春期の子どもを支える会 古山

感想・ご意見

Aさん(地域で活動)

今日は貴重なお話を聴く機会に参加でき本当に良かったです。私は「産後うつ」について独学で学んでいますが、自分の学びが浅いなあと感じました。城戸さんのお話を聴いて知った「産後うつ」のその先に起こる不幸な現実。私には想像できないものでした。その領域は専門家の方でも「何が正しいんだろう？」と悩むとおっしゃられていたのが印象的でした。子育てにおいて、ジャッジする事が求められるのではなく、共感し、伴走してくれる人がいる事が、人を育むのだと感じました。危うい思春期の子を減らす為に、幼少期から、いろんな大人と関わる仕組みが必要ですね。親が、保護者が全て、学校の先生が全てではない、多くの目と手が全ての子供達の成長を支える地域である事が求められていますね。

Bさん(医療/地域で活動)

保育士さんが行う子育て支援の仕組みや、今時のお母さんへの具体的な関わり方がとても参考になりました。親も子も人の温もりを感じながら色々な人に育てられていく事がとても大切なんだと改めて思いました。コロナ禍ではイベントやふれあい体験が企画できず、思い描く支援が難しいですが、様々な工夫をしながらあたたかい支援を考えて行きたいと思います。精神保健福祉士さんのヤングケアラーの2事例は、胸が張り裂けそうな思いで聞かせて頂きました。専門家の方ですら答えが導き出せない難しい支援ですが、常に味方である姿勢を見せて誠意を持って関わる、伴走者のような存在感が大切なのだと思います。貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。

Cさん(医療)

3名の報告をお聞きして、現場の生々しい声を伺うことが出来て興味深い内容でした。1例目は、妊娠が分かった時から子育てまで継続的にサポートが出来ることは両親が安心して妊娠、出産、育児とつながるようなシステムだと感心しておりました。私が、現在妊娠したら遠慮なく活用させていただきます。日本人はオープンに自分の思いを語るのが苦手な民族なので、なかなかすすまないかもしれません。広報の方法と介入の時期が課題かと考え

ます。2例目は保育園の現状を伺うことができ、貴重な内容でした。経験したことがない人にとっては、新しい驚きや保育士さんの偉大さを感じずにはられません。3例目は、育児から一歩すすんだ介入かと捉えております。当院にも精神保健福祉士が在籍しており、自殺企図がある人や精神科に受診される患者への公的サポートを手厚く行っております。医師や看護師は患者の身体へのアプローチですが、ケースワーカーさん方は、患者の生活へのアプローチであり、患者が自分らしく生きていくためにはどのような公的資源が必要かなどフルに活用するにはなど多岐にわたります。私は、話に出てきていた人たちは城戸さんに出会えたことが人生において恵まれているのではないかと思います。多くの人たちは恐らく公的なセーフティーネットからこぼれ落ちることもあるのではないかと推測されます。3例の話聞いての感想は、自分が賢く生きていくためにはいかにアンテナを張るのか、特に行政が発行している広報誌は各自が生活していくのに便利なサービスがたくさん掲載されています。みんなは携帯を持って様々な情報を検索できるのに、自分が快適な生活を送るための情報の検索はしないのかが不思議です。学校とかでも生きる知恵として情報提供が必要かもしれません。私たちが出来るのは知恵をつけるきっかけかもしれません。

Dさん（医療）

河内長野市の子育て支援が丁寧だと思いました。私も河内長野で子育てしたかったなと思いました。産後だけでなく、妊娠期からの関わりも大事にされていることで、一緒に子育てをしていく意識が親にも育つのではないかと、興味深く聞かせていただきました。また、地域に資源はあるけれど、繋がっていなかったり、親が知る機会がなかったりするるので、それを繋ぐ役割が行政にはあるのだと改めて感じることができました。自分が住んでいる自治体の支援について、なんとなくは知っていたけれど、もう少し具体的に知る必要があると思いました。保育士さんの視点で、母親に変化があるということを知り、納得できました。親の立場で、自分の時間がほしいとか、共感してほしいとか、その通りだと思いました。目の前にいる人が何を求めているのか、考えながら関わるということは、看護職も同じですが、その変化や背景にも目を向けていく必要があると学ぶことができました。精神疾患を抱える方は増えていますが、確かに、制度を利用できるからと言って、精神障害や発達障害で手帳を取得するように誘導するのはおかしいと思います。貧困も問題になっているため、その人がどんな問題を抱えているのか、話を聞くことが大切だと思いました。ヤングケアラーの問題は、深刻だと思います。多産の家庭(に限らないですが)では、うまれた子を親が育てずに、上のきょうだい育てているケースも多いです。そのこどもの人生って何なのか、と思うこともあります。多くの学びがありすぎて、うまく文章に書くことができず、すみません。ブレイクアウトでの交流の時間があつという間だったので、もう少し時間が欲しかったです。また、全体のまとめの交流も短時間でもあれば良かったのではないかと思います。今後も、定期的に交流ができると嬉しいです。ありがとうございました。